

各派代表質問

代表質問は3人以上の議員で構成される会派の代表が行います。
3月3日には、5つの会派を代表する各議員が、市政全般にわたるさまざまな質問を行いました。
ここでは、それぞれの議員がいくつかの質問をした中から、代表的な項目を選んで、質問と答弁の要旨を掲載しています。



大津百町地域で受け継がれている大津祭

問 本計画の推進には、重点区域に設定した堅田地域、坂本地区、大津百町地域での事業展開が、モデル的な役割を担う意味でも非常に重要になると考えます。計画に定める各地域の将来像の実現に向けた事業推進の方針は

答 堅田では景観協定、坂本では地区計画、大津百町地域では中心市街地活性化基本計画に基づくこれまでの取り組みを踏まえ、重点区域に設定した。これらの地区では、道路や街並みの修景整備、祭礼行事への支援など歴史的風致の維持、向上に資する事業を実施するとともに、重点区域の取り組みをモデルとしたまちづくりの手法が広く市民に認知されるよう努めていく。



新和会
伴 孝昭

歴史的風致維持向上計画の重点区域での事業推進

令和3年度の市政運営

問 コロナ禍を乗り越えてさらに市政が発展していくことを期待しているが、「夢があふれるまち大津」実現のための未来に向けた種まきを加速させる令和3年度の市政運営方針は

答 感染症対策、ワクチン接種の円滑な実施に注力するとともに、大津市総合計画第2期実行計画を着実に推進するため、計画全体を先導する5つのリーディングプロジェクトに重点的に取り組み、これまで受け継がれてきた本市の魅力をさらに磨き上げ、「夢があふれるまち大津」の実現につなげていく。

学校夢づくりプロジェクト

問 本プロジェクトにより、各学校においてそれぞれの特色を生かした取り組みが展開されていくことを願うが、創設に込めた市長の思いは

答 これからの学校は、地域とともに特色ある学校づくりを推進するとともに、子どもたちが地域に誇りを持ち、夢や将来の目標を持って学べるようにしていくことが大切である。

その実現のため、子どもや教職員による企画提案に基づき、学校の裁量で予算執行できる本プロジェクトの創設により、魅力的な学校づくりにつなげていく。

職員の接遇力向上

問 コロナ禍で多くの市民が厳しい状況にある中、行政への期待は大きく、これに添えていくには職員の接遇力向上が必要と考えるが、取り組み状況は

答 職員の接遇は行政サービスの根幹であると考えており、接遇マニュアルの改訂を進めているところである。

また、接遇をテーマとした研修の回数を増やすことも検討しており、行政サービスへの市民満足度を高めるため、引き続き、接遇力の向上に努めていく。

第3期観光交流基本計画の策定

問 ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて策定されることになる本計画は、インバウンド中心ではなく、国内、近隣地域からの誘客を前提としたものにすべきと考えるが、見解は

答 令和4年度から4年間の計画であるため、新型コロナウイルス終息後の国内外からの誘客を想定する必要はあるが、先行きはいまだ不透明な部分が多いことから、まずは近隣地域からの誘客を図るマイクロツーリズムの推進に力点を置き、段階的に取り組みを進められる計画にしていく。

その他の質問 地域の交通政策

水道事業の広域化 市立大津市民病院庁舎整備 市立幼稚園再編基準 など

*マイクロツーリズム 自宅から1～2時間圏内の地元や近隣への観光

